

留学報告書

高田勇氣

國立臺南大學

文化與自然資源學系文化觀光資源碩士班 卒業

(受領期間：2022年9月 - 2024年8月)

2024年8月

1. はじめに

私は、教育部台湾奨学金の受給者として2022年9月に國立臺南大學文化與自然資源學系文化觀光資源碩士班に入学しました。以下に2年間の大学院生活の概要を報告します。

2. 学業面

大学院への進学を決めた理由は、学部時代に交換留学していた台湾の歴史や文化、特に日本統治時代の歴史についてさらに知見を深めたいと考えたのがきっかけです。私は、日本人が台湾について考えるとき、一面的な理解に基づくものが多いことに課題を感じていました。近年、台湾の民主的社會の成熟を背景としてその歴史を客観的に再評価する流れが進んでおり、「ダークツーリズム」など観光を通じた学びの形などが台湾でも生まれつつあります。そういう環境に身を置いて、歴史を感じられる観光の形を学べないかと思い、台南大学に進学しました。授業では台湾の歴史や文化を中心に学び、課題では台湾、日本および欧米のダークツーリズムの状況について何度か取り上げました。

大学院の授業は、先生が選んだ論文を全員で読み討論する演習型の授業が多く、期末に自分の選んだテーマに関するレポートや口頭発表の評価を含めて最終的な成績が決まります。学部の授業のような紙のテストはほとんどないため、しっかり時間をかけて準備をすれば高得点を獲得することはさほど難しくないのではと思います。

同級生のうち2年間で卒業した人は私を含めて2名のみで、かなり時間をかけている先輩もいましたが、私の知る範囲ではそもそも2年間で卒業しようとしていない人が多かったです。学費もさほど高くないため卒業のプレッシャーが高くなかったのではないかと思います。最短で卒業しようとする場合は、単位取得だけでなく修士論文の研究計画書提出や学内での計画発表、学外での口頭発表等さまざまな条件を満たす必要があるため、それらは早めに確認しておく必要があります。

修士論文の研究内容としては、指導教授からの紹介もあって、ダークツーリズムそのものではありませんが日本統治時代末期の「建物疎開」を主なテーマとしました。

建物疎開は太平洋戦争末期に空襲の被害を抑えるために建築密集地域の建物を予め取り壊して空地を作り出す政策で、日本各地で行われたことが知られていますが、台湾でも行われていたことはあまり知られておらず、今まで研究の対象とされることも少なかった分野です。研究は資料が少なく行き詰まることも何度かありましたが、比較的順調に進めることができました。

研究の進め方としては、まず日本における同政策の発展について調査するとともに、台湾の建物疎開が行われた都市のうち台北市と台南市を例に当時の新聞や雑誌記事等を基に分析しました。その結果、当時日台の建築様式の違いから、台湾では人口密度を基準とした指定が行われ、その後大規模な空襲を受けて方針を修正したことや、戦前に作られていた都市計画との関連性があることがわかりました。なお、資料の多くは大学図書館が契約するデータベースや国立台湾図書館の電子資料で閲覧することができましたが、古い新聞は電子化されていないものもあるので、何度も台北の台湾大学、国立台湾図書館、中央研究院などへ出向くこともありました。

台湾の建物疎開に関する新たな知見を提供することで、日台に共通する歴史があることを認識し、複雑な過去について少しでも思いを巡らす人が増えればと考えています。台湾の日本統治時代は台湾の近代史を振り返る上で欠かせない時期ですが、史料の多くが日本語であるという制約のためまだ研究の余地がある分野でもあります。もっと多くの日本人の方がこの分野の研究に関心を持っていただければ幸いです。

<発表>

- ・高田勇氣、張靜宜「日治後期台灣防空地帶與防空空地 —以大稻埕為例」2023 大同地方知識學研討會、臺北市大同社區大學、2023 年 9 月 15 日
- ・高田勇氣「日本統治時代の台湾における建物疎開の過程」日本地理学会 2024 年春季學術大会、青山学院大学、2024 年 3 月 19 日、
https://doi.org/10.14866/ajg.2024s.0_44
(國家科學及技術委員會「補助國內研究生出席國際學術會議」の助成を受けました。)

<論文>

- ・高田勇氣「消防到防空 —— 戰時體制下台灣防空空地政策之分析」國立臺南大學修士論文、2024 年、<https://hdl.handle.net/11296/k39h4a>
ほか投稿中論文 1 本

3. 生活面など

私が学んでいた国立台南大学は、学生数が六千人程度、日本人留学生は十数名の比

較的小さな大学です。研究科は一学年が十人ほどの小規模なクラスで、授業では積極的な発言を求められ、自然と中国語の上達にもつながりました。また、クラスメイトや先生方にも助けられ、入学当初こそ慣れない生活で体調を崩すこともありましたが、すぐに適応することができました。

学校の位置する台南市は、台湾で最も古い歴史を持つ都市であり、日本統治時代の建築物も数多く残っているため、街を歩くだけでその歴史を感じることができます。生活費が台北市に比べて安いため、アパートを借りていましたが生活費には多少の余裕がありました。また、台湾はもともと交通費が安いところですが、台南市内の学生は平日半額、休日無料で市内バスに乗ることができ、市内の観光地はほとんど無料で入ることができるので、いろいろな場所に気軽に行くことができたのも良い点でした。

また、気候が温暖で晴れの日が多い台湾南部の気候も、生活の上で楽でした。

4. おわりに

私の研究内容は、日本統治時代の台湾を理解するという壮大な目標においてはほんのわずかな部分に過ぎませんが、関心を持った方がいらっしゃればぜひこの分野に飛び込んでいただきたいと思います。

最後に、この2年間研究に専念できたのは台湾奨学金の支援をいただいたおかげです。特に修士論文執筆期間中は、授業のないときもほとんど資料収集と論文作成に向き合う日々でしたので、生活費の心配をせず落ち着いて勉強ができた点は本当に助かりました。中華民国政府教育部および台北駐日経済文化代表処の方々、また指導教員の張靜宜副教授をはじめ研究を支えてくださった先生方、生活の様々な面で助けていただいた大学職員とクラスメイトの皆さんに感謝します。

以上